

臨床実践能力評価基準一覧表（1）

		レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ
定義		<ul style="list-style-type: none"> <li>指導を受けながら、マニュアルに沿った看護実践能力を身につける</li> <li>緊急時看護の基本を理解し、実践できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当看護師として、自立している</li> <li>プリセプターとしての役割が果たせる</li> <li>緊急時、状況を判断しスムーズに実践できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護専門職者として、自立している</li> <li>部署内においてリーダーとしての役割が果たせる</li> <li>緊急時看護全般を指揮・指導できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療チームメンバーの中で調整的役割がとれる</li> <li>組織内においてのリーダーシップが発揮できる</li> <li>看護部門内においてメンバーに指導、支援など教育的に関われる</li> </ul>
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>基本的知識・技術態度を身につけ、日常生活援助が安全・確実に実践できる</li> <li>看護過程を理解し、看護計画が立案できる</li> <li>緊急時看護の実際を理解し、指示のもと行動できる</li> <li>実践した看護を振り返り、自己の看護観を表現できる</li> <li>チームナーシングにおけるメンバーの役割を理解し、責任を果たすことができる。</li> <li>専門職業人、社会人として自覚を持ち、責任ある行動がとれる</li> <li>基本的コミュニケーションがとれる</li> <li>研究の基礎が理解でき、ケーススタディに取り組むことができる</li> <li>看護に必要な知識を主体的に学習できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>日常の看護が科学的根拠に基づき、安全・に実践できる。</li> <li>看護過程をふまえた個別的ケアが実践できる</li> <li>緊急時看護の理解を深め、迅速な対応ができる</li> <li>看護実践をもとに看護観を深めることができる</li> <li>担当看護師としての役割が遂行できる</li> <li>共感的態度で接し、信頼関係を築くことができる</li> <li>プリセプターシップを理解し、プリセプティに指導的に関わることができる。</li> <li>看護研究の基本的な考え方、方法が理解でき研究に取り組むことができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>個別をふまえた看護過程を展開し、看護実践モデルとなることができる</li> <li>スタッフの指導ができる</li> <li>看護の専門性を深め、看護観の再構築ができる</li> <li>部署において、リーダーシップを発揮し、役割が遂行できる</li> <li>関連各部署との連携、調整をスムーズに行なうことができる</li> <li>自分を客観的に見つめ相手を尊重した姿勢、行動をとることができる</li> <li>プリセプターを支援できる</li> <li>部署において、後輩へ指導的に関わることができる</li> <li>研究的姿勢をもち、研究のリーダーができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ジェネラリストとして、卓越した看護が実践できる</li> <li>自己の看護観を他者に伝えることができる</li> <li>組織管理における役割が遂行できる</li> <li>専門看護職者として、建設的な意見を述べることができる</li> <li>プリセプターシップを支援できる</li> <li>看護チームメンバーの能力を把握し、適切な指導、育成ができる</li> <li>院内外の研修に参加し、実践に活かせるよう指導ができる</li> <li>最新の看護が提供できるよう、看護研究の指導ができる</li> <li>問題解決能力を身につけ、業務改善が図れる</li> <li>経営方針が理解でき、協力できる</li> </ol>
看護実践能力	情報収集	<ol style="list-style-type: none"> <li>受持ち患者の状況を判断し、意図的に情報収集ができる</li> <li>必要時、看護実践の中で、追加情報を収集できる</li> <li>収集した中から必要な情報をチームメンバーに伝達できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>受持ち患者の情報収集時、コミュニケーションを確立し、患者の心配事など内面を表出させることができる</li> <li>家族や社会的問題についても考慮し、情報収集ができる</li> <li>他のチームからも意図的に情報が収集できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>問題の領域に焦点を絞った情報収集ができる</li> <li>医療チームと患者の総合関係を認識して、効率的に情報収集ができる</li> <li>情報収集の方法について、指導できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>業務に関する情報収集及び提供を、スタッフ全員に浸透させ、必要時指導ができる</li> </ol>
	問題の明確化	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護データベースや情報に関連づけて、看護上の問題を明確にできる</li> <li>優先度を考えて、問題を挙げることができる</li> <li>入院時の問題点を24時間以内に挙げることができる</li> <li>問題を1週間以内に変更・修正できる</li> <li>他の医療チームに、相談が必要かどうか判断できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>情報の分析・統合により、看護問題を明確にできる</li> <li>潜在する問題、予測する問題も明確にできる</li> <li>問題の優先度・緊急度を判断できる</li> <li>問題を他の医療チームに伝達できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>問題の抽出方法やアセスメントに関して、スタッフにアドバイスできる</li> <li>直ちに患者・家族を含めた、的を得た看護問題を明確にできる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>患者・家族を含めた、的を得た看護問題を抽出でき、スタッフにも指導できる</li> </ol>
	計画立案	<ol style="list-style-type: none"> <li>退院に向けた看護目標と各々の問題解決。目標を挙げることができる</li> <li>治療方針を踏まえた計画が立案できる</li> <li>看護問題ごとにO・T・Eに分けて計画が立案できる</li> <li>患者の状況に応じた目標及び計画の追加、修正ができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>問題点に対して、実践可能な計画が立案できる</li> <li>潜在問題、予測される看護上の問題についても、計画が立案できる</li> <li>個別性を踏まえた看護計画が立案できる</li> <li>患者・家族指導のプログラムを立案できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>特殊又は複雑なニーズをもつ患者の計画が立案できる</li> <li>他の医療チームや社会資源を活用できる</li> <li>計画の立案方法をスタッフにアドバイスできる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護計画は患者、家族の意見が反映され、十分説明できるように指導すると共に、自らも実践できる</li> <li>個々の患者を全人的にとらえた計画が立案できるよう指導できる</li> </ol>

臨床実践能力評価基準一覧表 (2)

		レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ
看護実践能力	実践	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護計画に沿って、患者の状況に応じた看護実践ができる(看護手順・基準)</li> <li>患者の症状・反応を観察し、ケアの優先度を判断して、実践できる</li> <li>必要時、計画(解決策)を修正し実施できる</li> <li>実施した看護結果を簡潔・正確に報告できる</li> <li>患者の急変時、指示に従って適切な行動ができる</li> <li>未経験の看護技術実施時は、資料や人的資源を活用できる</li> <li>「看護記録マニュアル」に沿って正確に記録できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>患者の状態に合わせて創意工夫した技術で、看護が実践できる</li> <li>問題の優先度、緊急度を判断したうえで実践できる</li> <li>熟練した看護技術で、患者のニーズに応じたケアが実践できる</li> <li>看護サービスの質を保證できるよう、手順・基準の活用を指導できる</li> <li>患者・家族に指導的な関わりができる</li> <li>緊急事態に対応できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>専門的知識に基づき判断し、看護ケアが実施できると共にアドバイスできる</li> <li>手順・基準の見直しができる</li> <li>困惑している緊急入院患者・家族に適切な援助ができ、指導できる</li> <li>緊急事態を予測して、対応できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>医療チームメンバーの力を最大限に発揮できるよう調整、指導ができる</li> <li>患者・家族の医療への参画を促し、同意の上で治療が行なわれるよう協力、調整できる</li> <li>ケア改善のためのカンファレンス内容がチーム内で統一して実施されるよう指導できる</li> </ol>
	評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>受持ち患者に、提供した看護ケアを評価できる</li> <li>評価の結果をフィードバックし、修正できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>チームメンバーと協力し、患者の経過をアセスメントできる</li> <li>行なった看護が、患者のニーズを満たしているか評価できる</li> <li>患者・家族への教育の効果を、評価できる</li> <li>記録の監査が、指導を受けながらマニュアルに沿ってできる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護計画に基づき、メンバーの行なった看護について、評価できる</li> <li>適切な看護サービスの提供に関して、評価ができると共にスタッフ指導ができる</li> <li>患者・家族の教育や効果・評価を指導できる</li> <li>カンファレンスを開催し、患者個々の看護計画の検討・修正・評価ができる</li> <li>他者の記録の監査がマニュアルに沿ってできる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>適切な看護が提供できるよう、看護過程の展開・看護記録の指導・支援ができる</li> <li>看護ケアの質を保證するため、看護サービスの評価を行ない、改善することができる</li> <li>記録の監査の指導ができる</li> </ol>
管理能力(役割・責務)	<ol style="list-style-type: none"> <li>与えられた役割を果たすことができる</li> <li>チームメンバーとして日勤・夜勤業務の役割を理解し、業務が円滑にできる</li> <li>業務を計画的に効率よく、一定時間内に終了することができる</li> <li>チームメンバーと情報交換することができる</li> <li>カンファレンスに参加し、発言できる</li> <li>患者の安全を第1に考え、院内の規定に沿って事故防止対策・院内感染対策が実施できる</li> <li>全て自己判断せず必要時、報告・連絡・相談が実行できる</li> <li>物品や消耗品の取り扱いなど、経済性を意識し、工夫して使用することができる</li> <li>災害発生時、指示に従い行動できる</li> <li>業務が支障なく実施できるように、自己管理ができる</li> <li>部署の目標を理解し、参画することができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>チームリーダーの役割を理解し、その日の日勤・夜勤のリーダー業務が円滑にできる</li> <li>メンバーの担当者及び受持ち患者の業務分担ができる</li> <li>チームの患者の状況を間接的に把握し、適切な看護、治療、検査が指示通りに実施されているか確認し、必要時指導できる</li> <li>他の者の業務を支援し、時間内に業務を終える工夫ができる</li> <li>プリセプターとしての知識を深め、後輩に指導ができる</li> <li>カンファレンスの司会進行ができる</li> <li>事故防止対策・院内感染対策の、新たな問題を、提供できる</li> <li>環境や物品管理について、改善につながる問題提起ができる</li> <li>常にコスト意識をもち、無駄を省く工夫ができる</li> <li>災害時の行動を理解し、日々確認できる</li> <li>部署内の問題を、メンバーに提案できる</li> <li>部署内の目標達成に向けて、積極的に取り組める</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>部署において、リーダーとしての自覚をもち、上司と協力して問題解決や業務改善に参加することができる</li> <li>部署の手順やマニュアルの作成・変更に関し積極的に取り組むことができる</li> <li>プリセプターの相談役として、関わるができる</li> <li>部署で必要な知識と技術を、教育的に指導できる</li> <li>安全・安楽・快適な環境の整備及び配慮ができる</li> <li>関連部署との連携を、スムーズに行なうことができる</li> <li>カンファレンスが円滑に運営されるよう支援できる</li> <li>事故防止対策・院内感染対策・災害対策について、問題を提起し、改善できる</li> <li>常にコスト意識をもち、無駄を省く工夫がスタッフに助言ができる</li> <li>部署の目標達成に向け、業務改善や目標修正など意見が述べられる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護活動を常に評価し、業務改善ができる</li> <li>病棟業務におけるスタッフの教育、指導による人材育成ができる</li> <li>スタッフの苦情や不安・不満を聞き、問題を明確にし、解決するよう努力できる。また、上司に報告できる</li> <li>ベッドを効率的に運用できるよう協力し、意見が提供できる</li> <li>関係する委員会、会議の推進役となることができる</li> <li>各関連部門、他職種との連携を強化し、共に改革ができる</li> <li>コスト意識をもち、経済性の視点で評価でき、改善に向け取り組むことができる</li> <li>部署のスタッフに、時間とコストの意識づけができる</li> <li>担当部署における薬品、物品、医療機器の円滑な運用と管理ができる。また、指導できる</li> <li>医療経済の動きに関心を持ち、病院の経営方針をスタッフに浸透させることができる</li> <li>部署の目標設定に参画できる。</li> </ol>	

臨床実践能力評価基準一覧表（3）

	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ
人間関係能力 (人間的・社会的)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集団の中で、自分の位置や立場を自覚することができる</li> <li>2. 自分の行動に、責任をとることができる</li> <li>3. 看護職として必要なコミュニケーション技術が発揮できる</li> <li>4. 感情のコントロールができる</li> <li>5. 看護実践を通して、看護観を表現できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 役割を自覚し、与えられた役割は柔軟に対応できる</li> <li>2. 相手の立場を考えた、行動ができる</li> <li>3. 患者や家族に共感的理解を示し、患者と良い人間関係を作ることができる</li> <li>4. スタッフ間の良いパイプ役になれることができる</li> <li>5. 自分の看護観をもち、他者に話すことができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己を客観的に見つめ、自ら正しく認識しようとする、姿勢と行動をとることができる</li> <li>2. アサーティブな人間関係を築くことができる</li> <li>3. 問題意識をもって、日々の業務に望むことができる</li> <li>4. ロールモデル(良いお手本)となれることができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建設的な意見をもち、創造性のある行動がとれる</li> <li>2. スタッフの立場や人間性を尊重し、人間関係が調整できる</li> <li>3. 他の医療チームと信頼関係を保ち、調整ができる</li> <li>4. 医療を取り巻く社会的変化を理解し、それに対応できる</li> </ol>
教育(自己・他者・学)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の看護を振り返り、出来ること・出来ないことを明確にして、自ら進んで学ぶことができる</li> <li>2. 院内外の教育プログラムに、積極的に参加することができる</li> <li>3. 日常の看護の中で、疑問や問題意識をもち、解決が必要な問題に対して、研究的に取り組むことができる (ケーススタディ)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新人に対し根拠づけて、基礎的看護技術の指導ができる</li> <li>2. 自己の課題を明確にし、院内外の教育プログラムに積極的に参加し自己啓発に努められる</li> <li>3. 看護研究に関心をもち、院内外の発表会に参加できる</li> <li>4. 看護の疑問に対して、参考図書や文献を検索し、実践に活かすことができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の専門性を目指し、研究テーマを見つけ、取り組むことができる</li> <li>2. 部署の学習計画の企画・実施・評価に参加できる</li> <li>3. 日常業務のあらゆる機会をとらえて、教育・指導ができる</li> <li>4. 院内外の研修に参加し、実践に活かすことができるように、指導できる</li> <li>5. 看護研究について、指導できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部署の能力を査定し、学習目標を明確にし実践できる</li> <li>2. 看護手順・基準及び記録を見直し、入職者の受け入れ体制を整えることができる</li> <li>3. メンバー個々の能力を把握し、適切な指導ができる</li> <li>4. 院内外の教育プログラムに、積極的に参加できるよう、働きかけができる</li> <li>5. 研究的視点を持ち、看護研究の推進、指示ができる</li> </ol>

- ・レベルⅠ→1～3年未満
- ・レベルⅡ→3～7年以下
- ・レベルⅢ→8～12年以下
- ・レベルⅣ→13年以上

友仁山崎病院 看護部  
2004年6月 作成  
2009年3月 更新